

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372801045		
法人名	社会福祉法人 綾友会		
事業所名	グループホーム桜の丘		
所在地	熊本県上益城郡甲佐町西寒野1151-2		
自己評価作成日	平成24年12月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成25年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の状態の変化に速やかに対応して、協力医療機関と連携があり、安心して暮らして頂けるホームである。木造平屋作りのホームで、広いリビングがあり、ガラス戸越し、テラスから庭へと続き開放感があり、花壇や菜園により季節を感じられるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八周年を迎えるホームは二月初旬に家族会と共に記念イベントを予定している。入居者の中には開所当時からの方も居られホームの歴史を共に支えて来られた表情は、高齢化する中においても、家族や職員の温もりに支えられ穏やかな中にも生き生きとしている。法人の精神は、併設施設に受け継がれ、小冊子に綴られた「行動指針」に施設長が自ら職員名を記し手渡ししながら、人としての教えを伝授している。職員は入居者が地域の一員として自信と誇りを持ち生活する為に、地元の祭りや古くから伝わる伝統行事に積極的に参加して、人々との繋がりを肌で感じながら生活する喜びを支援している。地域からの手厚い支援はホーム行事への協力、消防団員による週末の見回りなどに表出しており地域密着型事業所の意義を明確に実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の上半期の目標が『理念の浸透』として、行動指針の1項目を毎日重点項目として挙げ実践に力を入れた。下半期も継続して浸透に努めている。	開所後に設けられた三項目の理念は、個々の尊重と地域連携を主軸にして、一人ひとりの入居者を尊び地域密着型事業所として社会との繋がりを断ち切ることなく生活することの重要性や喜びを支援の中に反映させている。ホーム理念や法人の精神は運営推進会議で啓発し、新たに入職した職員に伝授されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の祭りに出かけたり、高校の体育祭、文化祭に出かけ交流をしている。食材の買出しも入居者と出かけ挨拶を交わしている。地元の方が犬の散歩途中に立ち寄られる事もある。	法人敷地内に祭られた「風の神」は古くから伝わる地元行事、風神祭として継承され、地域を上げての神社祭りに毎回、席を用意して待ってもらうなどホームの存在は地域の中にしっかり定着している。地域の代表者より誘われる「みかんや桃狩り」は入居者に馴染みの行事となり毎回楽しみにされている。中、高、大学生の福祉体験の受け入れや地元高校生との相互交流、ボランティアの訪問や消防団による週末の見回りなど地域と共にあるホームを形成している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生や高校生の福祉体験実習の受け入れを行った。甲佐町の福祉推進委員の施設見学時には、入居者への工夫などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、区長、老人会長、家族会会長、行政、入居者代表と施設職員メンバーで、入居状況、行事報告を行っている。区長からみかん狩り、祭りの案内を受け出かけている。	二ヵ月ごとの定期開催が実現している。活動報告の中で運動会や敬老会、外出時の入居者の生き生きとした表情をDVDや写真で紹介している。家族から提案のあったヒアリングの開示に報告書をまとめ会議の中で伝えている。地域情報の収集は外出支援に反映され、参加者の意見や提案がホーム運営に大いに活かされている。	現在は家族を代表して一名のみの参加となっているが、地元代表者が多数参加するせっかくの機会であり、他の家族へも案内をすることで会議の共有や意見の拡充に繋がるものと思われる。合わせて議事録の開示を検討頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内状、介護保険更新の申請時には、入居者と一緒に出かけホームの様子を伝えている。本年度、九州厚老局の実地指導を受け、協力を密に行った。	職員は提出書類や推進会議の案内状を入居者と共に役所に届けている。管理者は相談事や質問事項に電話や直接出向き応じてもらいながら、ホームに出来る地域貢献で行政と連携したいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、出かけていかれる方には、見守りに対応している。本体施設の身体拘束廃止委員会に参加して身体拘束『0』を維持出来るように努めている。	法人の「身体拘束委員会」に参加し、拘束をしないことを前提にした取り組みを実践している。研修会の中に、時代時代に当たり前のごとく使われていた拘束に繋がる品々を紹介し、拘束する側、される側の立場になって思いを推し図り、特に若い職員に向けその時代背景なども学んでもらうよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、年度初めのスタッフ会議にて全員で確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要と思われる方について、本体施設の社会福祉士に相談し、さらに地域包括センターに相談を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、家族連絡後ホームにて重要事項説明後契約を行っている。解約時には、退去後の支援について話を行い、家族の不安を解消出来るよう努めている。改定の際は、家族会や面会時に説明を行い、理解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催して意見を聞くように努めている。面会時には入居者の様子を伝えて、話しやすい雰囲気を作っている。	職員は本人、家族が日頃から何でも言える関係作りを大切にしており、普段から入居者の意向を汲み取っている。面会に訪れた家族も他の入居者と気軽に会話し、ホーム行事(運動会、誕生会、食事会)で更に馴染みの関係を作り上げている。法人は有識者による第三者委員を設け、すべての併施設への意見や苦情解決の手段を重要事項にうたい家族と共有している。	「早めにスケジュールを知らせてほしい」との家族の要望にすぐに対応し、行事への参加にも繋がっている。今後も苦情に限らず、要望や提案を記録に残す事でホーム運営に反映されるものと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	企画管理委員会(月1回)、運営推進会議(回/2ヶ月)行い、意見や提案を聞いている。	職員同士が日頃から何でも言える関係であり、出された意見にはカンファレンスやスタッフ会議の中で更に検討している。外出の少ない八月に花火大会を企画したり、故郷訪問の実現も職員の提案によるものである。自宅から思い出の家族写真を持ち帰り、ホームで大切にされている様子などを確認することが出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度を導入している。各自が自らの力を発揮し、成長を実感できるように支援し、職員面接を年2回実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の職責に応じた研修会を実施、月次研修を6回開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老社協、健社協や郡内の同業者の会議に参加するように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	8月、11月に新規の入居者があり、本人の訴えを聞き安心して暮らせる様にその都度対応している。家族や、入居前の施設職員に情報提供を依頼して、安心して暮らせる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後家族に連絡し、家族の意見を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランを作成して、家族の同意を得ている。又、状態の経過を見ながらプランを変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を入居者に声掛けし、一緒に行っている。出来る方には、畑に苗を植え、草取りから水やり、収穫まで一緒に行っている。花壇の花植えでは、植え方を教えてもらった事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	翌月の園外行事を、毎月知らせ、行事に参加される家族もおられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の祭りに参加して、交流を図っている。併設施設との月3回の交流会を行い、知人との面談を行っている。買い物帰りに、姪の店へ立ち寄りたりしている。	地域の祭りは入居者に馴染みの行事であり、知人との再会の場ともなっている。地元高校生による相互交流では顔馴染みの学生と共に一時を過ごし、月二回の散髪の支援も定着している。行きつけのスーパーでの買い物、キーボードや習字、畑仕事など、個々の特技が継続出来る環境を設定し、洗濯たたみへのこだわりなど一人ひとりの生き方をバックアップしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	オルガンを弾かれる方の横で歌を楽しまれるように誘導したり、外出や散歩では、車椅子を押して頂いたり、話し相手になられたりされている。入院された時には、一緒にお見舞いに出かけるときもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本年度2名の退去者が、何れも長期入院の為、退去後も見舞いに出かけたり、相談を受けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、思いや要望を聞き、把握に努めている。カンファレンス等で話し合い、様子も観察して、暮らしやすい生活に努めている。	入居者の言葉からだけでなく、表情や笑顔で思いを判断しながら、意向を把握しプランに反映している。家族の面会も多く入居者の様子を伝え、思いを代弁してもらいながら家族と共に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入居の方が2名おられ、前の施設からの情報を把握し、他職員に伝えている。本人や家族から話を聞き、情報を共有出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンス時などに、全スタッフで話し合い把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の訪問時に意見を聞いたり、専門的な事は専門家に意見を聞いている。	本人の暮らし方の意向をもとに担当職員や看護師がそれぞれの立場から意見を出し合い、個々に必要な支援や希望される事柄をプランに繋げている。計画作成担当者は入居者や家族の言葉をそのままプランにのせ、支援内容を細かく分析して法人の理学療法士などの意見も生活リハビリの中に活かしプランを立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	キーワードを上げ、ケアプランに添った記録を行う。又、そのキーワードの新しいことを次のケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ふるさと訪問などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設よりリフトカーを借用して全員で出かけている。地元住民の協力で祭りを楽しまれている。必要に応じて、併設施設の訓練員や管理栄養士にアドバイスを受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に月に一度、定期的を受診している。又、月に一度精神科医の往診を受けている方もいる。変化があれば、家族に連絡し相談している。	これまでのかかりつけ医を町内は看護職員が、町外の医療機関は家族によって受診同行をしている。家族が同行する場合は、看護師による情報提供書や皮膚科受診の場合は皮膚の状況変化の写真提供を行うなど、ホームと家族が連携を図りながら入居者の健康を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化に気付き皆で相談し、必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたらホームでの生活情報を伝え、面会に行き、病棟NS、必要時にはDr.と面会し説明を受けている。早期退院が出来るように関係者に相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化し長期入院が必要あるいはホームでの対応が難しいとなった場合に、家族と話し合いを行い、納得して今後の方針を決定している。	母体事業所で開催される重度化・終末期支援の研修と合わせ、ホーム内ミーティングの中で方向や必要性などを共有している。事前指定書を作成し、現在はホームに出来る支援に努めている。管理者は、一人ひとりのこれまでを大切に支援を行うためにも、この課題は家族も一緒に考えて欲しい事項であると語っている。次の家族会では事前指定書も含めた説明を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や勉強会を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練、月1度の部署内の防災訓練を行って防災意識を高めている。	年二回法人全体の総合訓練や月一度部署内自主訓練を実施している。毎月の安全点検や他の部署から外部の目で気づきを受ける取り組みは、ホームの安全対策への振り返りや職員の防災への意識を高める機会となっている。災害備蓄として紙食器や水・食品が揃えられている。	今後も日々の安全管理や地域との連携・避難訓練の強化など有事への対応策に努めて頂きたい。また、母体施設が災害時の避難所となっており、町の防災マップを活用しながら自然災害についても机上訓練を含めた研修会の開催を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	礼節と尊厳を持って対応するよう心がけている。特に入浴時、排泄時には羞恥心に充分配慮している。	入居者の呼称は苗字や下の名前にさんづけとし馴染みのある言い方を、本人や家族にも確認しながら対応している。今年度、併設事業所と合同で『尊厳という言葉が安易に使用していない』を議題として、勉強会を開催した他、マナー向上月間を設け、接遇マナーに努めている。写真の掲載など個人情報の使用にあたっては、家族から承諾を得、重要書類は事務所内で管理されている。また、職員へも守秘義務について研修・指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の意向や思いをくみ取るよう努めている。特に食べ物や飲み物の嗜好は選んでもらうよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の思いや本人の意向を尊重し、確認しながら時々の場面づくりを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時は、職員が共に洋服選びを行い、おしゃれを楽しんでいる。敬老会では、化粧を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、片付けは職員と共に行っている。又、菜園の収穫で季節の野菜を美味しく食べている。	家族や地域の方々からの差し入れ野菜や旬の食材を活用し、郷土料理(芋よごし・団子汁など)を取り入れた献立を作成している。特に家族からの野菜の差し入れは、入居者・家族双方の生きがいや楽しみとなっている。食材切りやつぎ分け等入居者もできることを一緒に行い、見守りや介助により食事が進められている。ミキサーや粥食など個々に応じた食事形態も準備され、喉越しの良さにも繋がるよう毎食の汁物が付けられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい形態での提供や好まれる物の提供、補食、水分摂取に努め、体重増減にも充分注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。出来るだけご自分で磨いていただけるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を支援している。快適に排泄して頂く為の支援を行っている。	職員は布下着に排泄用品の組み合わせを工夫しながら自立の方の継続や声かけなどによりトイレで排泄を支援している。動線を考慮して三部屋に一ヶ所のトイレを配置し清潔を心がけ、夜間もポータブル利用者はおられず自立や誘導支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防する為に朝から牛乳を提供したり水分を多く摂取してもらっている。液状を好まれない方には、ゼリーやとろみを付け水分摂取を促している。トイレでは、腹部マッサージを行い、腹圧をかけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や体調に合わせて入浴を勧めている。拒否の方には、時間をずらしたり、職員を交代して誘導している。	本人の希望や体調に応じ週二回から三回の入浴を支援し、夏場は毎日や一日おきの入浴となっている。清拭や汚染時のシャワー浴など季節や状況に応じた支援により清潔保持に努めている。浴室前に設けられた畳の腰掛けスペースは、横になったり窓の外を眺めながら水分補給のお茶を頂くなど入浴後の楽しみの空間となっている。	今後は浴室や脱衣所の物品の収納方法を見直すことで、更に寛げる入浴環境に繋がると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れている様子だったり、夜間あまり休まれている時には、休息してもらうように声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服用されている薬の勉強会を行い、副作用等について理解するように努めている。症状の変化があれば、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が昔していた事や興味のある物を提供し、張りのある生活が出来るように支援している。気分転換に庭でお茶する時もある。手伝いの後には礼を述べている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関には施錠はせず出かけられる方には見守りを行い、様子を見て声掛けをして気分転換を図るように努めている。月2回の外出行事を計画しており、家族には請求書送付時に連絡行い、外出に参加される方もおられる。	車を使った計画的な外出とともにできるだけ戸外にでかけ散歩や外気浴を支援している。地域の方々の協力による祭りの見学や参加をはじめ、家族との夕食や自宅への帰省など地域・家族が一体となり入居者の外出を支援している。訪問当日も午前・午後入居者と職員が玄関先で日光浴や談笑をする姿が確認され、季節の花見・物産館・地元の鮎まつりなど多くの外出支援が行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアーや食材の買出しに職員とショッピング楽しんでいる。財布を渡しレジの支払いをお願いする時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があると話して頂き、手紙が届くと本人に渡し、家族へ連絡している。年賀状が届き、本人に書くように勧めたが、書かれなかった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには毎月、手作りの壁絵をかけて季節感を出している。リビングからテラスへは、1枚ガラスで外の風景が見られ開放感を感じられる。浴室前には、一休みできる高床式の畳スペースがある。	圧迫感のないゆとりの空間が随所に設けられたホーム内は、換気や掃除が行き届き清潔に保たれている。観葉植物や月ごとの作品が掲示されたりリビングのガラス窓からは季節の移り変わりを眺める事ができる。また、ソファやコタツが置かれた畳の間をはじめ、デッキや、玄関先の椅子・テーブルなど入居者がいつでも寛げる空間作りが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや庭、テラスなど好みの場所でそれぞれの時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の手作りのパッチワーク、好みの花やぬいぐるみを飾られている。使い慣れた椅子や鏡台を持ち込まれているところもある。	それぞれ間取りや眺めの異なる居室には洗面台や押し入れが設置され、ベッドやチェスト・仏壇・時計・花鉢・手芸作品など馴染みの品々が持ち込まれており本人・家族の思いが伝わってくる。仏壇に毎朝、水をあげられる方への支援や家族と相談しながらベッドや家具の位置を決定するなど入居者の状態や安全面に配慮した配置を心がけている。退去の際はカーテン・畳・クロスの張替えなどが行われ新しい居室環境が整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台は居室と共有スペースにある。畳間やソファ、長テーブルの椅子、食堂の椅子など、出来るだけ自分で立ったり、座ったり出来るような作りとなっている。		